

地域に愛される公民館づくりを目指して

～新しい講座の開催を通して～

長崎市東公民館

1 はじめに

東公民館では、地域住民が「つどい」「まなぶ」「むすぶ」ことを促進していくために、それぞれの職員が知恵を出し合いながら、創意工夫して公民館運営に携わっている。

本年度の研究を進めるにあたっては、研究主題を昨年と同様に「地域に愛される公民館づくりを目指して」と設定し、研究の継続化、日常化を図っていく。そして副主題を「新しい講座の開催を通して」とし、既存の講座に加え、新たな講座を開催していくことで、利用者の興味関心を高めていき、主題に迫ろうと考えている。

2 運営内容

(1) 新たに春の講座で開催した講座

① 「はじめての韓国語講座」・・・【過年度の講座の復活】

東公民館で活動している「韓国語サークル」の先生を講師に招き、開催した。令和元年度にも開催しており語学の講座が、親子対象の英会話しかなかったので4年ぶりに開催することにした。



② 「楽しいバウンドテニス教室」・・・【過年度の講座の復活】

学習グループ「東長崎バウンドテニスクラブ」から会員を増やすきっかけにしたいという要望があり開催した。令和元年度にも開催しており、4年ぶりに開催することにした。東長崎地域は、体を動かすことが好きな方が多く、多くの応募があった。



③ 「絶品！あったかホームメイドパン&スイーツ」・・・【講座内容と名称の変更】

それまでは、「おうちごはんクッキング」として料理全般を扱う講座であったが、今年度から料理内容をパンとスイーツに絞り、講座名を変更した。秋の講座では、さらにパンに特化して「絶品！あったかホームメイドパン」とした。



④ 「ベジタブルクッキング」・・・【講座内容と名称の変更】

長崎市環境部からエコ活動と、公民館講座を結びつけられないだろうかとの相談があった。そこで「地産地消」で食品の輸送コストを抑えることは、SDGsにつながることから、野菜ソムリエの資格を持つ「トールペイント」講座の講師に講座内容の変更を依頼し、地元産の旬の野菜を作った料理を提案する講座を企画した。



(2) 新たに夏休み子ども講座で開催した講座

① 「手作り乾電池教室」・・・【新規の講座】

令和3年度は長崎市恐竜博物館の開業にあわせて「教えて！恐竜先生」を開催、令和4年度には西九州新幹線の開通に合わせて「いよいよ新幹線が長崎にやってくる」を開催した。今年度は、座学ではなくパナソニックの協力を得て工作講座「手作り乾電池教室」を開催した。応募者が多く、急遽2回開催とした。



②「レッツズンバキッズ! かんたんダンスにチャレンジ」・・・【春・秋の講座からの活用】

春や秋の講座で開催している大人向けの講座「楽しい音楽に合わせてかんたんエクササイズ」を、子ども向けの内容にできないかと講師に打診し実現した。中学校の体育ではダンスの科目の履修があり、子ども達の関心も高く、定員を超える応募があった。



(3) 新たに秋の講座で開催した講座

①「LINEからはじめるスマホ講座」・・・【新規の講座】

ここ数年、スマホ講座の開催を考えていたが、公民館のニーズに合った講師が見つからず、開催できなかった。NPO 法人まちラボと生涯学習企画課の協働事業ということで、円滑に開催することができた。応募者が多く、急遽2回実施となり、受講者の興味関心も高かった。次年度は生涯学習企画課の協働事業としてではなく、公民館の予算でNPO 法人まちラボを講師に招き、開催する予定である。



②天然素材を使ったかご作り・・・【新規の講座】

春や秋の講座で「山野草散策」を担当している講師は他の公民館では園芸の講座も開催している。そこで今年度から、園芸分野の講座も担当してもらった。初めての講座であったが、定員を超える反響があった。開催後は、「集中して取り組めた」等、肯定的な感想が多かった。



(4) 新たに特別講座で開催した講座

①うきうきウォーキング・・・【春・秋の講座からの活用】

春の講座であじさいを、秋の講座で紅葉を見ながら歩く講座を開催しているが、桜の見頃の時期の講座がないため、3月に特別講座として開催した。満開の桜の下、春を満喫しながらのウォーキングは爽快そのものであった。



②ロボットであそぼう・・・【夏休み子ども講座からの活用】

夏休み子ども講座で開催予定の「ロボットであそぼう」が講師の体調不良で中止となったため、受講するはずであった児童を優先的に参加してもらうことにした。よって今年度限りの開催で、文字通り特別な講座となる。3月に実施予定。



昨年度の夏休み子ども講座の様子

3 成果と課題

新たな講座を実施することにより、応募者数の増加はもちろんのこと、年齢層の幅を広げることもつながっている。制作作品の見本を展示したり、チラシ等の広報の充実に努めたりすることで、新たな講座においても、地域の方々の興味関心を高めていけたのではないだろうか。

一方、新たに講座を増やしていくことで、活動場所の確保や日程および担当職員の調整に苦慮している。講師の意向も確認しながら次回の開催を見合わせる講座を検討し、新規と見合わせる講座のバランスを踏まえ、魅力ある講座を目指していく。

4 おわりに

今後も、社会教育を推進する東長崎地区のコミュニティの拠点施設として中心的な役割を果たし、利用者の視点に立ちながら、地域に愛される東公民館となるよう、運営や取組等を工夫していきたい。